

社会資本総合整備計画

やはたえきまえちく
八幡駅前地区都市再生整備計画

平成31年1月30日

ふくおか きたきゅうしゅう
福岡県 北九州市

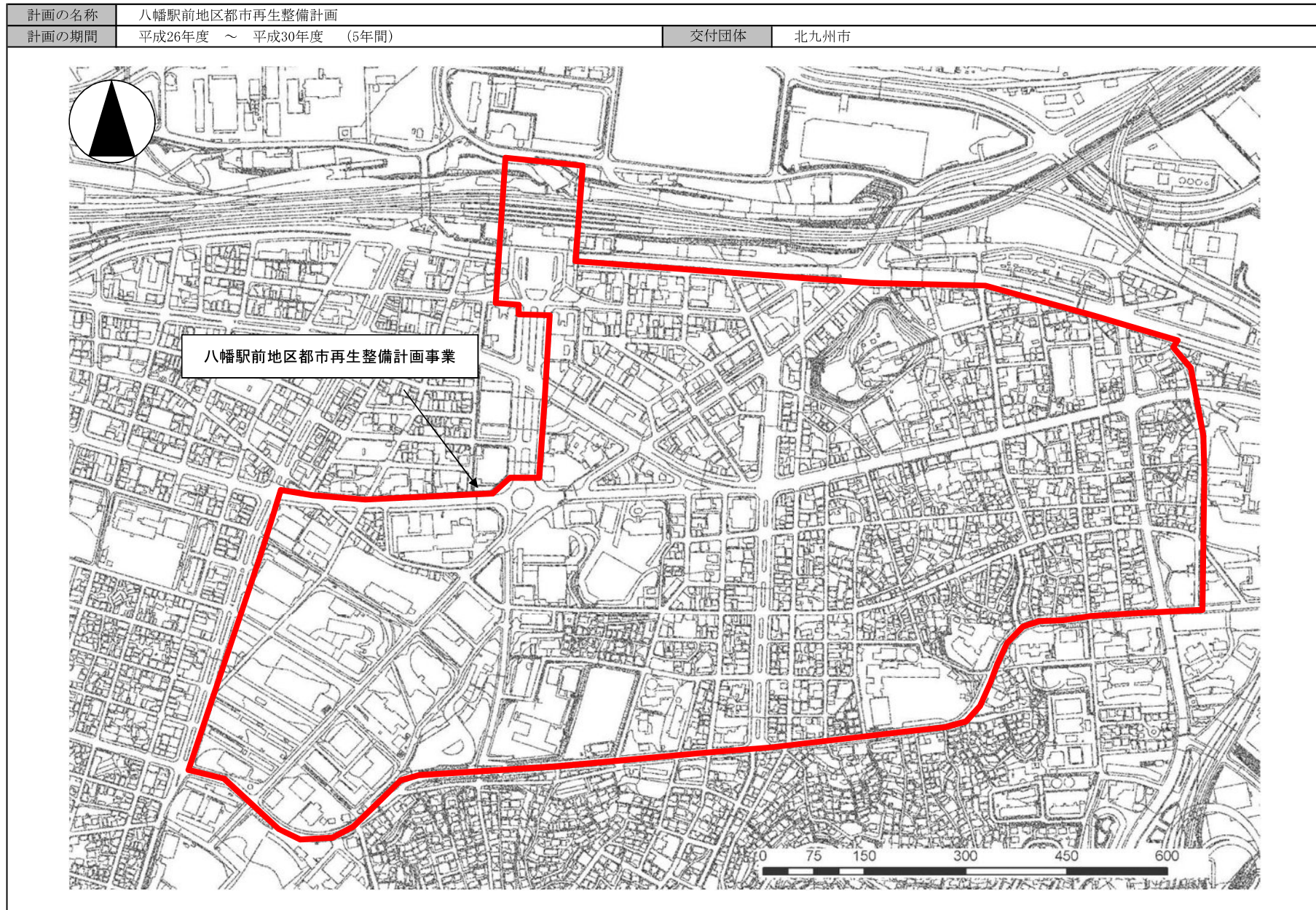
社会資本総合整備計画（市街地整備）

平成31年1月30日

計画の名称	八幡駅前地区都市再生整備計画							重点配分対象の該当	×						
計画の期間	平成26年度～平成30年度（5年間）				交付対象	北九州市									
計画の目標	大目標： 子どもから高齢者まで多世代が、安心して豊かに暮らせるまちづくりを推進する 目標1 小学校跡地などの遊休地を有効活用し、老朽化が進む公共施設を再整備するなど、街なかの都市機能の向上や快適な生活環境づくりを行い定住人口減少の緩和を図る 目標2 J R八幡駅から公共施設群への歩行者ネットワーク等を再構築し、ユニバーサルデザインによる人にやさしい歩道や昇降機などの整備を行う 目標3 子育て世代や高齢者・障害者が安心して豊かな生活を送るための環境として、安全・安心に視点をのいた公園施設の再整備を行い、住民の憩いの場を創出する														
計画の成果目標（定量的指標）	1. 計画区域内居住人口： 地域住民の居住空間の充実・快適性の向上による人口減少率の緩和 2. 災害時の患者収容者数： 災害医療の充実、住民が安心して暮らせるまちづくりへの寄与 3. J R八幡駅の年間乗降客数： J R八幡駅の乗降客数の減少率緩和														
定量的指標の定義及び算定式							定量的指標の現況値及び目標値			備考					
							当初現況値 (H24年度)	中間目標値	最終目標値 (H30年度)						
	1. 住民基本台帳登録人口(人)						7,773 (100%)	—	7,630 (98.2%)						
	2. 災害時に受入可能な入院・外来患者数(人)						入院： 439 外来： 1,725	—	入院： 600 外来： 2,765						
	3. J R八幡駅の年間乗降客数(千人)						5,104 (100%)	—	4,898 (96.0%)						
全体事業費	合計 (A+B+C)	2901.5百万円	A	2901.5百万円 (うち提案事業分 0百万円)	B	0	C	0	効果促進事業費の割合 (A(提案分)+C)/(A+B+C)	0.0%					
交付対象事業															
A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接/間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H26	H27	H28	H29	H30		
1-A1	都市再生	一般	北九州市	直接	北九州市	八幡駅前地区都市再生整備計画事業 (社会資本整備総合交付金分)	病院、道路、公園等 (82.5ha)	北九州市						2,901.5	
合計													2,901.5		
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接/間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H26	H27	H28	H29	H30		
合計															
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考				
C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接/間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H26	H27	H28	H29	H30		
合計															
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考				
その他関連する事業															
事業種別	地域種別	交付対象	直接/間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
								H26	H27	H28	H29	H30			
合計															
A'	0	B'	0	C'	0	(C+C')/(A+A')+(B+B')+(C+C')					0.0%				

(様式第8)

社会資本総合整備計画 参考図面



交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H26	H27	H28	H29	H30
配分額 (a)	10.0	44.3	267.6	943.0	158.1
計画別流用 増△減額 (b)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
交付額 (c=a+b)	10.0	44.3	267.6	943.0	158.1
前年度からの繰越額 (d)	0.0	8.8	36.5	56.9	52.2
支払済額 (e)	1.2	16.6	247.2	947.7	
翌年度繰越額 (f)	8.8	36.5	56.9	52.2	
うち未契約繰越額 (g)	0.0	30.9	31.3	52.2	
不用額 (h = c+d-e-f)	0.0	0.0	0.0	0.0	
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	58.2%	10.28%	5.22%	
未契約繰越+不用率 が10%を超えている 場合その理由	—	道路事業の桃園尾倉 1号線交差点の交通 処理に関する警察協 議に不測の日数を要 し、年度内の工事契 約が困難となったた め。	東田本町1号線昇降 機設置工事におい て、施工計画や支障 物件の移転について 関係機関(JR)との協 議に不測の日数を要 したため。	八幡駅駅前広場の改 修や無電柱化におい て、施工計画に関す る関係機関協議に不 測の日数を要したた め。	

※平成26年度以降の各年度の決算額を記載

都市再生整備計画(第5回変更)

やはたえきまえ
八幡駅前地区
(地方都市リノベーション事業)

ふくおか 福岡県 きたきゅうしゅうし 北九州市

平成31年 1月

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	福岡県	市町村名	北九州市	地区名	八幡駅前地区(地方都市リノベーション事業)	面積	82.5	ha
-------	-----	------	------	-----	-----------------------	----	------	----

計画期間	平成 26 年度 ~ 平成 30 年度	交付期間	平成 26 年度 ~ 平成 30 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標

大目標:子どもから高齢者まで多世代が、安心して豊かに暮らせるまちづくりを推進する

目標1. 小学校跡地などの遊休地を有効活用し、老朽化が進む公共施設を再整備するなど、街なかの都市機能の向上や快適な生活環境づくりを行い定住人口減少の緩和を図る

目標2. JR八幡駅から公共施設群への歩行者ネットワーク等を再構築し、ユニバーサルデザインによる人にやさしい歩道や昇降機などの整備を行う

目標3. 子育て世代や高齢者・障害者が安心して豊かな生活を送るための環境として、安全・安心に視点をおいた公園施設の再整備を行い、住民の憩いの場を創出する

目標設定の根拠

都市全体のリノベーション方針(都市構造再編を図るため、都市機能の拡散を防止する等の公的不動産のマネジメントも取り組みを含む)

昭和38年に五市対等合併により政令指定都市となった本市は、重厚長大産業の衰退に伴う人口の減少と少子高齢化の進展により、平成15年に策定した「北九州市都市計画マスタープラン」にて、市街地の拡大に対応するまちづくりから街なか重視のまちづくりにシフトした。

また、平成20年に策定した「北九州市都市計画マスタープラン八幡東区構想」では、

- ・JR八幡駅前区域は、行政・商業・医療などの生活支援施設や文化・交流施設の集積を維持・強化し、地域生活の中心として拠点機能を高める
- ・JR八幡駅を中心として街なかならではの生活サービス施設等の集積を活かし、多くの人が集まって便利で安心して住み続けられることができる街なかを再生する
- ・公共交通の利用促進に向けて交通結接点における利便性の向上を図る

ことにしている。

そのため、基幹医療施設である市立八幡病院を中心とした中心市街地を「中心拠点地区」に位置付け、市立八幡病院を遊休地を有効活用した近傍移転により医療機能の維持を図り、周辺の文化施設・大学などとの連携強化による効果的なまちづくりを進め、中心拠点地区の都市機能の魅力を維持し、安全・安心なまちづくりの再構築を図る。

なお、平成25年11月に公表した「市行財政改革大綱(案)」においては、「市の将来を見据え、真に必要な施設については整備・更新する一方で、全体の保有量を抑制する観点から、施設の複合化や多機能化を進めるとともに、整備当初の使命が薄れた施設は廃止する」など、選択と集中による公共施設マネジメントに取り組むことになっている。

まちづくりの経緯及び現況

当地区は、明治34年に日本近代産業の先駆となった官営八幡製鐵所(現新日鐵住金株)の操業以来、企業城下町として栄えてきた地域であるが、その大部分は戦時中に空襲を受けて焦土となった。

戦後、大規模な区画整理事業による街の復興が行われ、幹線道路が整備されるとともに街の骨格が出来上がった。製鐵所も再建され関連企業も次々に集積し、当地区周辺は再び企業城下町として発展していった。特に当該地区は、市内の主要駅であるJR八幡駅に近く、基幹医療施設である市立八幡病院をはじめ、図書館、市民会館、音楽ホール等が立地するなど医療・文化の拠点地区として成長していった。

さらに、駅前から平野周辺エリアについては、国際性豊かな若々しさのある街並み景観の創出に向けて、重点的な景観形成を進めており、国際村交流センター・アジア低炭素化センターの新設や九州国際大学の進出など、国際交流や環境技術支援、文化活動の中心としての役割を担っている。

課題

・駅から病院までや病院周辺の利便性向上を図るため、交差点改良などの道路整備を進める必要があり、市街地の核となる公共施設・商業施設の再整備と併せて、これらを活用できるネットワークの構築が求められている。

・当行政区は、市内で最も高齢化率が高くなっており、高齢者が暮らしやすいまちづくりを進める必要がある。また、今後も人口減少、少子高齢化の進行が続くものと予想されており、少子化を抑制するため、子どもを産み育てやすい環境づくりを進める必要がある。

・公共施設の中でも基幹医療施設である市立八幡病院は、施設が老朽化・狭隘化しており、一部は耐震性能を有していないことから、早期の改修・改築が必要である。また、救急・小児・災害医療といった広域性を有する政策医療を担っていく必要があることや、病院機能を維持しながらの改築は困難なため、市の中心部に位置する現在地の近傍で移転改築しなければならない。

・市立八幡病院以外の施設についても、同様に老朽化し、耐震性能を有しない建築物もあり、耐震改修の実施が必要となっている。

将来ビジョン(中長期)

・「都市計画マスタープラン八幡東区構想」における当該地区まちづくりの方針に「多くの人が安心して暮らし、便利で楽しく出かけたくなるまち」を掲げており、目標の一部として、「暮らし、学び、遊びに便利で、安心して住み続けられるまちをつくる」ことにしている。

様式2 整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1（小学校跡地などの遊休地を有効活用し、老朽化が進む公共施設を再整備するなど、街なかの都市機能の向上や快適な生活環境づくりを行い定住人口減少の緩和を図る） ○採算性の面から民間医療機関による提供が困難な医療を提供するという公立病院が果たすべき役割を踏まえ、救急・小児・災害医療といった政策医療を担っていく必要がある市立八幡病院を近傍にある遊休地（旧尾倉小学校跡地）を有効活用して、移転建替えを行う。</p>	<p>・地方都市リノベーション推進施設：市立八幡病院</p>
<p>整備方針2（JR八幡駅から公共施設群への歩行者ネットワーク等を再構築し、ユニバーサルデザインによる人にやさしい歩道や昇降機などの整備を行う） ○JR八幡駅駅前広場等の整備を行うとともに、公共施設群へのアクセス道路や交差点の改良を進め、歩行者系ネットワークの再構築や人にやさしい歩道など生活環境の改善を行う。</p>	<p>・道路：八幡戸畑線 ・道路：桃園尾倉1号線 ・道路：桃園尾倉1号線交差点 ・高質空間形成施設：八幡駅駅前広場 ・高質空間形成施設：東田西本町1号線昇降機</p>
<p>整備方針3（子育て世代や高齢者・障害者が安心して豊かな生活を送るための環境として、安全・安心に視点をおいた公園施設の再整備を行い、住民の憩いの場を創出する） ○安全・安心な（子どもや高齢者・障害者などの安全・成長に配慮した）公園施設の整備を行い、子どもだけでなく高齢者や障害者などが安全・安心に利用しやすい公園づくりを行うとともに、子どもを生み育てやすい環境づくりを通して、地域の居住性の向上を図る。</p>	<p>・公園：春の町一丁目公園 ・公園：尾倉三丁目公園 ・公園：小伊藤山公園</p>
事業実施における特記事項	
<div style="border: 1px solid black; height: 300px; width: 100%;"></div>	

八幡駅前地区(福岡県北九州市) 整備方針概要図

目標 子どもから高齢者までの多世代が、安心して豊かに暮らせるまちづくりを推進する	代表的な指標	計画区域内居住人口 (人)	7,773 (100%) (24年度) → 7,630 (98.2%) (30年度)
		災害時の患者収容者数 (人)	入院: 439 (24年度) → 入院: 600 (30年度) 外来: 1,725 (24年度) → 外来: 2,765 (30年度)
		JR八幡駅の年間乗降客数 (千人)	5,104 (100%) (24年度) → 4,898 (96.0%) (30年度)

